



SQUADRA CORSE

2015年9月25日

FIA-F4 第5大会 (スポーツランド SUGO) レビュー

篠原拓朗が決勝レース 2 で 4 位入賞。グスタボは区間タイムで速さを証明。

■大会概要

開催地：宮城県・スポーツランド SUGO (一周：3.7375km)

開催日：2015年9月19日(土)～20日(日)

■大会結果

・19号車：篠原 拓朗

9月19日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第9戦予選：7番グリッド

9月19日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第10戦予選：5番グリッド

9月19日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第9戦決勝(規定周回数：15周、最大30分間)：9位

9月20日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第10戦決勝(規定周回数：15周、最大30分間)：4位

・63号車：グスタボ・ミヤサバ

9月19日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第9戦予選：20番グリッド

9月19日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第10戦予選：26番グリッド

9月19日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第9戦決勝(規定周回数：15周、最大30分間)：19位

9月20日(天気：晴れ/路面：ドライ) 第10戦決勝(規定周回数：15周、最大30分間)：18位

■大会レビュー

2015シーズンのFIA-F4第5大会は9月19～20日、宮城県のスポーツランド SUGO で31台の参加により実施され、VSR ランボルギーニ・スクアドラ・コルセ・フォーミュラ・ジュニア・チーム (VSR Lamborghini Squadra Corse Formula Junior Team) は、14シーズンのスーパーFJのもてぎと東北の両シリーズで王者に輝いた篠原拓朗(しのはら たくろう/20歳)と、アメリカ US2000 シリーズやブラジル・ツーリングカー選手権で頭角を現すグスタボ・ミヤサバ (Gustavo Miyasava/19歳) を起用する2台体制で挑みました。

これまで当チームで FIA-F4 に参戦した 12 シーズンのフォーミュラ・アバルト・ヨーロッパとイタリアの両シリーズ王者、ニコラス・コスタ (Nicolas Costa / 23 歳・ブラジル) はランボルギーニ・スーパートロフェオへのステップアップが予定されており、今大会ではグスタボ・ミヤサバのドライビングアドバイザーを務めました。

19 号車の篠原は 19 日 (土) 午前実施された予選で、ベストタイムに基づき第 9 戦決勝レースの 7 番グリッド、セカンドベストタイムに基づき第 10 戦決勝レースの 5 番グリッドを獲得しました。迎えた 19 日 (土) の第 9 戦決勝レース、スタートの混乱でポジションをふたつ落としてしまい、9 番手で 1 周目を終えました。レースは上位陣も大きな変動はなく、前をいくマシンを追い続けましたが、抜くには至らず 9 位のままチェッカーを受けました。

20 日 (日) の第 10 戦では自己最上位グリッドからのレースとなり、スタートもうまく決めてポジションキープ。前を行くマシンに追いつき、一時は前を行くマシンのスリップストリームに届く場面もありましたが、相手選手の絶妙なブロックに阻止され、オーバーテイクは成りませんでした。逆に後続からのプレッシャーをかけられる場面もありましたが冷静に対処し、今シーズン自己最高位の 4 位でチェッカードフラッグを受けました。

63 号車のグスタボは 19 日 (土) 午前実施された予選で、第 9 戦決勝は 20 番グリッド、セカンドベストタイムによる第 10 戦決勝は 26 番手からのスタートとなりました。迎えた 19 日 (土) の第 9 戦決勝レースは無難なスタートを決めましたが 1 台に先行を許し、1 周目は 21 番手でコントロールタワー前を通過。そこから次第にペースアップし、4 周目には 19 番手に浮上。しかし前をいく F3 や GT を経験するベテラン・ドライバーの巧みなブロックを最後までかわすことが出来ず、そのまま 19 番手でチェッカードフラッグを受けました。

20 日 (日) の第 10 戦では 26 番グリッドからスタートし、絶妙なスタートでポジションをアップ。一気に 22 番手まで浮上します。2 周目には 1 台をパスし、21 番手。続く 3 周目には 20 番手、4 周目には 19 番手とポジションを上げます。そして中団グループのマシンが 1 台コースアウトしたこともあって、18 番手に浮上し、そのままチェッカードフラッグを受けました。レース中、高速区間である第 4 セクターのタイムはトップの選手やチームメイトの篠原よりも速く、FIA-F4 デビュー戦で大器の片りんを見せてくれました。

なお、FIA-F4 第 6 大会は 10 月 31 日 (土) ~ 11 月 1 日 (日) に大分県のオートポリスサーキットで開催されません。

■コメント

・19 号車：篠原 拓朗

「練習走行の S P コーナーでクラッシュしてしまい、木曜日、金曜日と悪い流れを作ってしまったのは自分のミスです。予選でその悪い流れを払拭できたと思ったのですが、第 9 戦は自分の精神的な弱さが出てしまったと反省しています。第 10 戦は自己最高位のグリッドからスタートし、スタートもうまく決まったので表彰台を意識していたのですが、目の前のドライバーを最後まで仕掛けるところまでいけず、抜けませんでした。チームのスタッフは褒めてくれましたが、自分としては情けない気持ちで悔しいです。ただ、2 レースともにポイントを獲得できたのは今季初なので、成長はできたのかなと思っています。ようやくいろいろなものが見えてきているので、またここから更に成長していきます。また、ランボルギーニからスーパートロフェオのテスト・ドライブのチャンスを頂きました。このレースが終わったらすぐにイタリアへ飛び、アドリア・サーキットでテストさせてもらえるそうです。GT300 クラスよりパワフルで速いマシンだそうですが、すごく楽しみにしています。ミスすることなくパフォーマンスを見せて、来年のチャンスをつかめたらいいと思っています」



© 2015 VSR Lamborghini Junior Team

・63号車：グスタボ・ミヤサバ

「VSRランボルギーニ・スクアドラ・コルセ・フォーミュラ・ジュニアチームの一員として、日本のFIA-F4に参戦できることになったことを感謝しています。日本も初めてですし、新幹線も初めてで、チームもサーキットも、マシンも初めてなのに、練習走行がほとんど雨で、予選、決勝が晴れというのは、僕にとって厳しい条件でした。でもチームのスタッフはとてもいい仕事をしてくれましたし、同郷のニコラス・コスタにかなり助けられました。予選で初めて新品タイヤを履いたので、いいアタックができませんでした。第9戦は、スタート練習が許されていなかったのが、ぶっつけ本番となってしまいました。レースは前のマシンのドライバーがまったくミスをしなかったのが最後まで抜けませんでしたが、最終ラップには予選タイムよりいいタイムをマークできたので、まだまだ練習が必要です。第10戦も大きな変化はなかったですが、抜けるマシンは何台かいたし、区間タイムでは第4セクターがトップの選手やチームメイトより速かったと聞いて、少し嬉しかったです。次のオートポリスは難しいサーキットだと聞いていますし、早めに日本に来て、チームのシミュレーターで練習させてもらう予定です」



© 2015 VSR Lamborghini Junior Team

以上

この件に関するお問い合わせ : VSR Lamborghini Squadra Corse 事務局

machida.vsr@gmail.com